

## 学部・寄宿舎 重点目標

### 教育活動

目標が達成できたか？

4:そう思う 3:ある程度そう思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

	学部目標	行動目標	方策	指標	協業	教職員 評価	改善・次年度に向けて	評価	外部評価者からの意見
小学部 (高学年)	・経験を積み重ねることで、自分なりに工夫しながら活動し、さらに興味・関心を広げる。	○地域連携共同学習年間計画に基づいた授業実践を行う。	・地域連携共同学習年間計画に基づき、目標(知力)にせまれる授業実践ができたか、学部研や教科等検討会において評価する。	・実施率8割以上	地域連携C 研修 情報管理	3.2	・実施率10割。 ・地域とのかかわりを通して、児童にとっての[思考を深める姿]とはどのような姿かをチームで話し合い、共通理解のもと授業を計画し、実施することができた。 ・次年度も目標を明確にもち、地域と協働する学習を検討し、設定したい。	3.8	・それぞれの目標に向かって児童・先生・保護者が連携して努力されていると思います。 ・生徒の近い存在である保護者のコメント活用は充実させて戴きたい。 ・「ずてるなんでもつたいない！」をテーマにコースターやゼ石鹸作りをチーム一丸となって試行錯誤しながら取り組んだ事で仲間意識や芽生えたと感じます。そして地域に出て大人の方達の話を聞き、役に立つ事が地域への関わりが深まるきっかけになったと思います。そして知らない人へのあいさつ、礼儀作法も勉強になったのではないのでしょうか。
	・自分からあいさつをしたり返事をしたり決まりを守って遊んだりする。 ・部分的な支援で身の回りのことをする。	○「特別の教科 道徳」のねらいを踏まえた授業実践を行う。(A主として自分自身に関する事、B主として人との関わりに関する事)	・道徳科のねらい(内容項目にある道徳的諸価値)を踏まえ、授業の中で、児童に「どのようなことを考えてほしいのか」「どのようなことに気付いてほしいのか」を明確にした授業実践ができたか評価する。(前期、後期各1回)	・実施率8割以上	学習支援 健康・安全	3	・実施率10割。 ・どの学級も道徳科のねらいを踏まえた授業実践に試行錯誤しながら取り組めた。 ・次年度も児童の姿から取り扱う価値を精選(明確)にし、児童の気持ちを揺さぶり、寄り添う授業を構成していきたい。	3.8	・「ずてるなんでもつたいない！」をテーマにコースターやゼ石鹸作りをチーム一丸となって試行錯誤しながら取り組んだ事で仲間意識や芽生えたと感じます。そして地域に出て大人の方達の話を聞き、役に立つ事が地域への関わりが深まるきっかけになったと思います。そして知らない人へのあいさつ、礼儀作法も勉強になったのではないのでしょうか。
	・自分の目標をもって挑戦したり、自分の役割を理解し、部分的に支援を受けながら最後まで取り組んだりする。	○キャリアパスポートを活用した児童自身による目標設定や振り返りの時間を設定する。	・一人一人に合わせたキャリアパスポートの工夫、改善ができたか評価する。 ・学期に2回以上、キャリアパスポートを活用した授業を実施できたか評価。(学期始め、終わり、日々の授業)	・実施率8割以上	学習支援	3.5	・実施率10割。目標を意識できるよう、毎月、目標を振り返った学級もあった。 ・保護者のコメントの活用には課題が残ったため、キャリアパスポートの取組を重ねながら、保護者との連携も含め、より児童が意識できる取組となるよう工夫していきたい。 ・キャリアパスポートを日々の授業で活用するために、授業の内容やねらいを児童の目標とリンクさせて計画し実施できるように年計の時点で計画できるとよい。	3.9	・目標を大きく達成されとても素晴らしいと思います。
中学部	・学習や生活上の課題に気づき、調べたり考えたり話し合ったりしながら、自分のできることをやってみようとする。	○調べたり、考えたり、話し合ったりする学習活動を設定する。	・学部研や教科等検討会において、学習活動が設定できたか評価する。	・実施率8割以上	研修	3.9	・学部研や教科等検討会で授業について話し合い生徒の知的好奇心を高めるように学習活動を設定することができた。 ・今後も教員の話し合いの場を設け、生徒の実態をとらえながら調べたり、考えたり話し合ったりする学習活動を設定する。	4	・1学期に防災についての授業をさせていただいたときに生徒の関心の高さを感じ、熱心に聞いていただいたと嬉しく思いました。 ・先生方も生徒さんが集中できる用意配慮されているのが分かりました。全般的に熱心さが理解できました。 ・SDG'sの勉強として外部講師の方から学ぶ機会をもてたことが大きな経験になったと思います。また、高齢者の方達と交流する事自分たちは何ができるか思いやりの心をはぐくむいい機会になったと思います。
	・学校生活や地域生活のルールやマナーを守り相手の気持ちを意識して行動する。 ・日常生活において、自分のできることに自分から取り組む。	○毎月、あいさつの日を設け、あいさつの呼びかけをする。 ○日々の暮らしの中で自己・他者において「よかったこと」を探ることを呼びかける	・あいさつボランティアを募り、生徒と一緒に月に1回あいさつを呼び掛ける。 ・生徒に終りに一日の中で「よかったこと、できたこと、前向きな振り返りを行うよう」呼び掛ける。	・実施率9割以上	子ども支援	3.5	・行事関係以外の日曜日には設定することができ、あいさつを生徒に意識づけることにつながった。 ・生徒会とともに行動時は、曜日と時間の設定を変えて行うことが必要になる。 ・終礼時に前向きな振り返り時間を設定することができた。 ・生徒の実態に応じて設定する。	3.8	・指標の実施率がどうだったのかわかりませんが内容としてはきちんと達成しているようなので良いと思います。
	・気持ちや考えを適切な方法で伝えたり受け止めたりしながら、友だちと1つ1つの事を一緒に行動する。	○生徒が適切な方法で伝えよう学習活動を設定し、地域連携協働学習の目的を共有し互いの思いを表現し合う場面を設定する。	○授業シートを活用する。 ・単元の終わりに、地域のひとつの・ことのかかわりの視点で活動を振り返る。 ・互いに考えを伝えあう場面を設定する。	・実施率8割以上	地域連携C	3.9	・年間を通じて全ての地域連携協働学習で授業シート用いて学習の目的を共有し、振り返り時に学びや思いを整理することができた。 ・地域連携共同学習の来年度の年間計画において学部間のすみわけも行われたことで目的を明確にして引き続き学習計画を進めていく。	4	
高等部	・身の周りの事象に課題意識を持ち、これまで身につけた知識や技能を活用したり、応用したりして課題解決に向けて取り組む	○「個に応じた学びの環境」を整える。 ・全ての生徒の学びの充実 ・発達段階に応じた支援と対応	・学期末に、教員アンケートを実施(結果を来年度の教育課程編成に活かす)	・肯定的意見6割	学習支援	3	・個に応じた学びの環境については、教員の肯定的意見が9割だったが、来年度もさらに、様々な障がいへの理解と、チームでの対話をより大切にしていく必要がある。	3.6	・生徒さん一人一人の学習及び活動における行動がとても良いと思いました。先生方が学校全体として連携されているのだと感じました。1年生の皆さんも授業させていただきましたが意欲的に参加されていたと思います。
	・社会生活の中のルールやマナーを守り、誰もが安心して過ごすためのふるまいについて考え行動する。	○基本的な「ふるまい」の力を高める。 ・あいさつの力の向上 ・相手のことを考える力の向上	・基本的な挨拶(号令)が確実に出来るように、生徒教員が改めて共有する。 ・「あいさつ強化期間」を実習前に設定する。 ・毎月の学部集会以生徒と一緒に「ルールやマナー」について考える機会を設定する	・実施率7割	進路支援C 子ども支援	2.6	・ルールやマナーを守る力については、保護者の肯定的意見は8割。学部では、「語先、後礼」を軸にふるまいの力を高めていきたかったが、教員の肯定的意見は6割割に留まった。主事として徹底できなかったことに責任を感じている。 ・ルールやマナーを生徒と一緒に考える流れができたので、来年も引き続き行っていきます。	3.1	・ルールは「守る」だけでなく「作る」(ために意見を述べる)ことも同じくらい大切だと思います。自分たちの声を届けることは大切だと思うので大切にしていきたい。 ・地域に出て勉強することによって実際の社会や文化に触れる機会を得ることができ、より実践的な知識やスキルを身につけることができると自信につながると感じます。そして、将来における職業や進路の選択に役立つ良いきっかけになるのではないかと思います。 ・地域でできることについては、どんな課題があったのでしょうか？
	・学校や地域の一人として、課題解決のために何ができるかを考え自ら実践する。	○「地域連携協働学習」の確実な実施。 ・計画的、段階的な実施 ・地域への貢献について生徒の意識向上	・年間計画にそって計画的に実施 ・学期末に、生徒アンケートを実施(結果を学部内で共有する)	・実施率10割 ・肯定的意見6割	各学年 地域連携C	3.2	・各学年ごとに計画的に実施できたことは評価できる。 ・地域の一人として、力を発揮できることについて保護者の肯定的意見は6割、生徒の肯定的意見は4割割だった。粘り強く時間をかけて意識向上を図っていく必要がある。	3.4	・生徒の肯定的意見が低いという事は進め方において改善がすべき点あると思うので次年度に繋げてください。
寄宿舎	・舎生会や部屋ごとに舎生同士で話し合いながら、自分たちの生活をデザインする。	○舎生会役員を中心とした舎生会活動を通して、自分の思いや考えを伝える方法を学び、自分たちの生活を豊かにする。	・寄宿舎生活振り返りアンケートの実施(学期1回) ・アンケート結果を元にした舎生間の話し合い活動の実施(2学期・3学期)	実施率10割	中学部 高等部 ろう学校	3.5	生活振り返りアンケートより生活充実度 1学期末 88% 2学期末 82% ・振り返りアンケートをもとに、グループで話し合う時間を持った。自分の思いや考えを伝えることができるようになってきた。 ・舎生の意見を反映する機会を多く持ったことで、自分たちで寄宿舎生活を豊かにしていく様子がうかがえた。	3.8	・生活の場として安全も含めて生徒さんと先生方の関係性の良さを感じました。 ・充実度が下がっている点は気になりますが、舎生の自立性は以前より育まれて良いです。

校務分掌・事務 重点目標

【校訓】 明るく(健康・明朗性) なかよく(協調・社会性) いっぱい(自立・自主性)

【教育目標】 児童生徒一人一人の自立と主体的な社会参加を目指し、生きる力や豊かな人間性を育む

目標が達成できたか？

4: そう思う 3: ある程度そう思う 2: あまり思わない 1: 全く思わない

運営活動

分掌名	重点目標番号	行動目標	方策	指標	協業	教職員評価	改善・次年度に向けて	評価	外部評価者からの意見
<b>①児童生徒の教育目標達成を促す教職員の意識、実践力の向上</b>									
1 児童生徒の主体的な学びを支えるとともに学びの定着を図る。									
学習支援	①-1	個別最適な学びを支えるための学習環境を整える。	集団適応しにくい児童生徒の最適な学びを保障するための指導体制の工夫(教室確保・教員シフト) 集団を活かした学びを保障するためのTTIに関する情報提供	(教室確保等) 教員アンケート充実度7割(TTI情報提供) 1回以上	各学部		3.2 教室の確保や教員シフトなどの指導体制の工夫については、9割以上が肯定的な意見であった。学習環境は概ね整えられたと考えるが、教育内容が個別最適であったかについては検討する点があると思う。集団での学びも大切にしながら一人一人の多様な学び方を保障できるように、教科等検討会等を活用してPDCAサイクルを十分に機能させられるよう引き続き発信していく。その基盤として、一人一人学び方が異なることを互いに認め合う学級・学年づくりを推進していく必要がある。	3.6	
研修	①-1	児童生徒の思考を深めるための手だてについて協議できる学部研を計画・運営する。	学部研における協議、記録の工夫(付箋、ワークシート等)	年度末アンケート達成率 8割	学習支援 地域連携C		3.3 おおむね、目標については肯定的意見をいただいた。引き続き、ESDを通して「浜田養護学校の育てたい資質・能力」を育み、ESDを進めるために必要な学び方として、「主体的・対話的で深い学び」があることをおさえて、実践に取り組む。 ・研究テーマの意識化に課題にあった。今後さらに、「思考を深めるためにはどうしたらよいか」を中心に話し合い、授業づくりができる工夫をしていく。	3.6	
子ども支援	①-1	児童生徒が規範意識やふるまいを高められるような活動を計画・実施する。	学部集会の定期実施。また、学部集会の中で、生徒会から発信する場を設定(学期に1回以上、高等部) 学部集会の中で、主事や進路から発信する機会を設定。(年間3回以上、全学部)	実施率10割	各学部 進路支援C		2.6 ・取組の実施は計画通り行った。しかし、一部の生徒の規範意識がなかなか高まりにくかった。今後、生徒心得については保護者を含め理解啓発をしていく必要がある。 ・生徒会発信による活動は少し効果を感じた。継続し、形にしていってほしい。 ・担任が指導しやすくなるための工夫が必要。	3.3	・一部の生徒の規範意識が高まらなかったことに対して担任が指導しやすくなるための工夫とは具体的にどんな工夫になるかを明確にできるとよいと思います。
健康・安全	①-1	児童生徒に保健目標を提示し、保健に関する知識や実践力を高めるための学習教材を提供する。	児童生徒の実態に合わせ、主体的に考えることのできる資料を作成する 各学級で学習の機会を設ける	回数: 1回/2か月 実施率10割	各学部		3.3 ・養護教諭や健康安全部員が学級担任と連携し、一緒に指導を行うことで、実施率が上がった(歯の学習・実施率10割)。教材を提供するだけでなく、連携して指導していくことが必要。 ・保健指導を行うことで、児童生徒が生活の中で意識する様子が見られた。歯の染めだしや手洗い指導BOXなど、体験的な学習を取り入れることで、より意識の向上につながると考える。	3.6	・各目標に対する教職員の皆さんの努力に対して敬意を表します。 ・掲示物は以前に増していろいろと取り組まれていました。
進路支援	①-1	授業前、授業後のあいさつを統一し、実施する。	各学部のあいさつの仕方を統一し、表示をしたり、教員の中で指導を統一して行う	ポスターの掲示 授業前後の挨拶実施	各学部		3.1 普段の授業から意識できる生徒が増えてきた。実習前あいさつや、実習中等、頑張っている生徒も多かった。また授業全ができていない生徒も多いので、来年度も継続していきたい。	3.7	
寄宿舎健康	①-1	生徒の学びを支える為に、食の大切さを伝える。	・食の大切さについての学習会及びアンケートを行う。(前・後期各1回 年2回)	実施率10割 生徒の意識変化 7割以上	健康・安全		3.2 ・3学期に2回目のアンケートを実施した。「毎日残さず食べていますか」の問に対して、「なんでも食べる」「苦手な物は量を減らして食べる」を合わせた回答が88%だった。食量の残飯量が一学期と比較して減っていることから、苦手な食材を食べようという気持ちが育ってきていることが伺える。 ・食の学習会で、栄養教諭から直接食事の大切さを学んだことは舎生に好評だった。次年度も開催できると良い。	3.6	
寄宿舎生徒支援	①-1	舎生役員を中心とした舎生会活動を推進するための計画・運営をする。	・掲示物や動画等で地域の情報を提供したり、生徒にアンケートを取ったりする。 情報提供(随時) アンケート(年2回)	実施率10割 生徒の生活充実度 7割以上	中学部 高等部 ろう学校		3.3 舎生生活充実度(生活振り返りアンケートより) 1学期末 88% 2学期末 82% ・振り返りアンケートをもとに、グループで話し合う時間を持つことができた。 ・舎生役員会や各学年部での話し合い活動、行事の活動別での話し合い活動において、自分たちの意見を反映する機会を多く持つことができた。	3.6	
2 個々の能力と学習意欲を引き出すためのICTの活用									
学部	①-2	児童生徒の深い学びに向けたICT機器を活用した学習活動の充実を図る。	授業研究や学部会等の機会にICT機器活用事例について教員間で共有できるようにする。 児童生徒の実態に合ったアプリ・活用実践の紹介したり、教育活動や運営活動に応じた効果的な使い方を情報提供したりする。	学期に1回実施	情報管理 研修 学習支援		小:3 中:3 高:2.8 情報管理部を中心に活用に向けての情報提供やICT支援員さんのミニ研修を通して少しずつ授業や校務で活用でき始めている。Canvaの活用実践も少しずつ始まったが、主体的な学びにつながるICT活用については引き続き研究や実践が必要である。	3.5	・ICTを活用した学習はこれからだと思います。

②地域と共に学び合う学校づくりの推進									
1 地域と連携・協働した魅力ある学校づくり									
地域連携	②-1	地域のひとつ、もの、ことを活用した学習計画の企画・調整を行い地域との連携協働学習を推進する。	地域の人や学部講師によるESDを企画する。地域連携協働学習年間計画の実施状況をまとめ、拡大プロジェクト会で確認する。	年4回(防災、福祉、人権、平和に関すること) 学期1回 ※実施率 10割	研修部 学習支援部 各学部	3.5	○地域の方や外部講師によるESDについては、今年度の反省を踏まえ学習支援、研修、地域での系統だてた学習内容に整理し次年度の地域との連携協働学習年間計画を作成した。人権・福祉の学習においては人権教育の全体計画と関連を踏まえ、各学部のねらいの見直しが必要である。 ○地域との学習の手続きや学習の進め方については次年度も研修部と連携し、ESDの視点の重視や様式の統一など校内の共通理解を図っていく。 ○次年度は、地域との連携協働学習として取り組む単元、協働者を具体的に決める。年度当初から授業の立案のための期日を設定し、企画・実施・振り返りにおいて連携を密にして計画的に実施できるようにする。	3.6	・サポーターとして完成できている。 ・地域との連携はもっと協力できると思いますので、学校からだけではなく地域からも提案していきたいと思えます。 ・学習報告会に参加し子供たちが発表する姿を見て、みんながチームの一員とある意識があり、一人一人の特性に合わせた発表の仕方を先生たちが工夫されていた。 ・人前で発表することは子供達にとっても良い経験になったと思えます。
寄宿舎 研修	②-1	地域を知り、地域で暮らすための生活づくりを推進するために情報提供を行う。	・掲示物や動画等で地域の情報を提供したり、生徒にアンケートを取ったりする。 情報提供(随時) アンケート(年2回)	実施率10割 生徒の関心度の変化 7割以上	研修部 地域連携	3.2	・各活動後に毎回振り返りを行った。さまざまな人の意見も聞くことができた。 ・地域や他学年の活動の様子を掲示して知らせた。生徒はよく見ており、関心度は高かった。	3.6	・どの項目においても地域とのつながりの強化はとも感じることができます。
2 地域、保護者への学校の実践と魅力の発信									
総務	②-2	PTA各部の事業において、活動の充実および情報発信を行う。	保護者のニーズに応じたPTA研修会開催 PTA各部の事業後にHP等で情報発信	研修の充実度 事業後にHPアップ10割	進路支援C 保護者	3.4	・進路研修会は、学部単位にわかれてテーマを設けたことで、保護者のニーズに応じた研修が実施できた。講師さん選定と研修の組み立てについて、進路支援Cと協業して対応できた。 ・PTA活動は、各部の活動をHPあるいはインスタで情報発信した。昨年度の取組の反省を踏まえて、内容の見直し、活動の充実を図った。はまようまつりでの献血事業、8月の校内清掃後の安全点検は課題が残ったため、役員会等で次年度に向けての協議の場を設ける。	3.8	
情報管理	②-2	本校の魅力を伝える情報と受信者のニーズに応える情報を発信する。	学部等の魅力的な取組を、各教職員が発信しやすいように、情報管理部員が発信の手続きや発信内容作成の支援を行う	新HP上又はSNSでの情報発信(合計月7件以上)	各学部 各分掌	3.4	本校の魅力について、普段の学習の内容そのものが魅力であると考え発信を行った。発信の回数は目標を達成することができた。今後は、どのような情報が求められているか、ニーズの把握を行っていきたい。	3.6	・学校だよりのない時も発信していただいで感謝しています。 ・学校のイベントに地域としてたくさんの方に参加していただくようにしたいと思います。
進路支援	②-2	卒業後の生活について、生徒や保護者に向けて情報発信を行う。	PTA進路研修会、PTA進路見学会の実施「社会人通信」発行	研修会、見学会実施 年間3回以上発行	総務部	3.3	研修会、見学会、社会人通信の発行などを行った。今年度は進路研修会で、学部ごとにテーマを設定したことで、興味をもたれる保護者も多かった。社会人通信を使って進路の授業を行うクラスもあり。身近な卒業生のリアルな姿が見られてよかった。来年度も生徒や保護者にむけて、発信できるとよい。卒業後の課題についても、問題提起できるとよい。	3.7	・卒業生のフォローは大変と思いますが、何とかが継続して頂きたい。企業側もしっかり協力します。 ・バザーや地域の活動の報告をもっとアピールしたほうがいいのではないのでしょうか。 「こういうことが出来る」↓「こういうものが作れる」ことを地域の人や企業が見てみる ↓ 仕事の依頼や活動の協業などの話も出てくるのではないのでしょうか。
地域連携	②-2	地域との連携協働学習の企画・調整・まとめと学校の取組の情報発信を行い地域と連携協働した取組を推進する。	地域との連携協働学習中間報告の実施 地域との連携協働学習発表会の実施 地域との連携協働学習の実践紹介	8/25(金) 12/18(月) 学期1回 実施 10割	研修部 学習支援部 各学部	3.5	○次年度も地域との学習のまとめを学期ごとに授業担当者に様式4(PP資料)に簡潔にまとめてもらい、学期のまとめとして掲示物、動画、県内特別支援学校間の情報共有で活用する。徹底できていない面もあるので、報告も含め地域との連携協働学習の進め方、様式について説明の時間をとる。 ○地域との連携協働学習報告会はESDの効果的な実施のために児童生徒による発信と学習成果の振り返りの機会として、次年度も設定したいと考えている。ただ、地域の方との意見交換会と合わせると地域の方の声を十分に聞くことができない。具体的な時期、内容については今年度の実施状況とアンケート結果を踏まえて検討する。 ○次年度地域との連携協働学習については連携協働・ゲストT(外部講師)、ボランティアの3つの依頼種別で整理し各連携先や渉外担当等を明記しスムーズな授業企画・実施を図る。	3.7	
③安心安全な教育及び環境の整備									
1 安心安全のための教育と教育環境づくり									
寄宿舎 総務	③-1	○安心・安全な寄宿舎の環境作りに務める。	・安全点検の実施(3回) ・障子や網戸の補修(長期休業中他) ・除草作業(年2回)	実施率8割	総務部 事務室	3.4	・各学期に1度の安全点検 実施率10割 ・除草作業は夏季休業中・冬季休業中に実施 ・障子、網戸の修繕を随時行った。 生徒が安全に生活できる環境づくりを実施することができた。	3.7	
事務部	③-1	○定期巡回点検を確実に実施したうえで、修繕が必要な箇所を把握し、速やかに更新計画表を作成するなど対応を行う。	・毎月、定期巡回点検を実施し、修繕が必要な箇所を選定する。 ・修繕が必要な箇所に優先順位をつけ、更新計画表を作成する。	・実施決定したものの実施率10割	各学部 寄宿舎	3.5	・施設や設備は、毎月、定期巡回点検を実施し、早急に修繕が必要な箇所を把握し修繕を行った。また、安全衛生点検に基づいた修繕要望も受けながら、速やかに対応することが出来た。一方、多額の修繕が必要となるもの、又は早急な修繕が必要ないと認められるものは、次年度以降の対応とした。 ・施設や設備の改修等については、毎年度優先順位をつけた更新計画を作成し、県教委に要求を行っており、今年度予算配分が認められなかった箇所は、次年度も継続して要求することとしている。	3.7	・安心安全のための定期的な点検をお願いします。

**④働きやすい職場づくりの推進**

1 教職員が働きやすい環境づくり

管理職	④-1	<p>○働きやすく、働きがいのある学校を目指し、教職員が参画した働き方改革の取組を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組のスタートは全員で行うことで、一人一人が自分のこととして考えていけるようにする。</li> <li>・取組の状況やプロジェクトの進捗情報はこまめに情報発信し、校内が一体感をもって進めていく。</li> <li>・プロジェクト会は年間計画に入れて見直しをもって確実に実施できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画したプロジェクト会の確実な実施と、働き方に係るアンケート7割以上肯定的意見</li> </ul>	各学部、寄宿舎、保健室、事務部等プロジェクト会	<p><b>3.3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価以降、第3回、第4回と計画通り実施することができた。授業づくりの充実に向けた具体的な取組として、チャットを使った気軽な授業づくりのお悩み相談や誰もが気軽に相談したり頼ったりお互いが支え合う職場の風土づくりを進める「はまようトークフオークダンス」などいくつかの取組を全体に提案し実施することができた。チャット内でベテラン教員と若手教員とが1つの話題でつぶやき合ったり、教員の得意な習い事等が授業のゲストティーチャーにつながったりと効果が表れた。アンケートでは肯定的評価が98%。今後も働きやすさだけでなく働き甲斐の視点を大切にして働き方改革を進めていく必要がある。</li> </ul>	<p><b>3.7</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の働きやすい職場づくりが生徒さんたちの学びにとって大切だと思います。</li> <li>・業務の多い中で先生方は一生懸命の取り組んでいらっしゃると思います。</li> </ul>
-----	-----	--	--	--	-------------------------	--	--